

開催日：2019年2月20日（水）～21日（木）

開催場所：鬼怒川温泉あさやホテル

出席：藤原、奥村、毛利、佐々木（葉）、佐々木（邦）、谷口、松永、稲垣、神田、栗原

2月21日（日）

9:00～10:30 ワークショップ テーマ1

・計画学委員会表彰規定

- 「4. 候補推薦の対象は、土木計画学に関連するすべての賞とする」は削除する
- 賞の名前と過去の受賞者リストを整理・蓄積しておくが良い
- 計画学で対象となる賞は、1) 功績賞 2) 研究業績賞 3) 国際貢献賞 4) 国際活動奨励賞であり、そのうち研究業績賞は幹事会マターとせず、論文賞に合わせて学術小委員会から推薦をもらうこととする
- 土木計画学研究委員会からきちんと候補者を推薦する仕組みをつくりたい
- IPMLでの周知により候補者を募るが、推薦はあまり出てこないと思われる。そのため、幹事会ががんばって後押しする必要がある
- 4月の幹事会で修正した内規をもとに議論し、6月の委員会での承認を目指す

・災害時調査団派遣ガイドライン

- 「②連絡調整すべき関連組織」は削除
- ガイドラインでは手続きとして必要なことを分かりやすくまとめ、その他に覚書として積み残しや課題を記録としてまとめる
- 藤原委員長から、西日本豪雨災害の経験から、調査団立ち上げの判断基準となる災害規模が分からないこと、調査団の活動期間が決められないこと、被災地に個人研究として多くの研究者・アンケート調査が入り込んでくるのが現状で組織的に調査できていないこと、調査研究費用への不安、防災担当幹事がいない、緊急時の対応フローチャートがないことについて課題を提示された
- ガイドラインの中にフローチャートを追記する（地盤工学会を参考に）
- 神田幹事より、災害調査にあたりテンプレートが有効であるとコメントがあった
- 計画学委員会にとっての災害の現場とは、行政施設である場合が多い。計画学の研究者は災害調査において何を提言できるのか分からないことが問題で、これからの災害調査研究を蓄積し、そのとき計画学として何ができたのか、記録を残すとともに発信していくことが重要である
- 計画学の研究者として、日頃の地域・現場との信頼関係を構築しておくことが重要である
- 4月の幹事会で修正したガイドラインをもとに議論し、6月の委員会での承認を目指す

10:40～12:00 ワークショップ テーマ2

計画学の研究テーマの在り方について。

幹事会からのセッション・研究テーマ提案

・歴代委員長経験者 PBF メモ

- 次の秋大会が企画部門（3日間）になるので、全体セッションがあっても良いのでは。計画学の会員が共通認識として知っておくべき・学ぶべきこと（例えば災害、国際）を議論するなら意味があるかもしれない。
- 土木計画学の「文化」とは？
- 秋大会では地域セッションを開催しているが、議論の場ではなく、発表の場となっている。例えば地域セッションに学生のコンペを組み合わせて双方向で討論する形をつくってはどうか

- 他の学協会の動向も注視したほうが良い。より専門分化に向かっているようで、計画学も同じ方向であるとも解釈できる。委員長経験者懇話会では、この流れを止めよとのリクエストと受け止めている
- 専門分化といっても、計画学の研究は、他の AI 等の研究分野と比べるとあまりにもスピードが遅く、気が付いたときには八方ふさがりとなってしまうことが懸念される。そうではなく、我々計画学は研究テーマの多様性が必要であり、そのためには現場・実践から研究の種をみつけることが重要である。
- 専門分化への流れを変える方策として、秋大会を徹底的に討論の場として研究テーマの広がりを狙う「絶滅回避のための土木計画学」という位置づけも考えられる
- 専門分化に走りかけの若手研究者に対して、異分野の研究テーマとの接点をもたせる「橋渡しのための計画学」という位置づけも考えられる
- 失敗に対する敬意が足りない風潮がある。モデルで単純化、効率化を図るきらいがあり、現場のきめ細かさと乖離する場面が多々ある
- 歴史観の欠如が問題である

(上記議論と関連して)

佐々木副委員長からの提言 ダイバーシティ, 教育

- ダイバーシティ度の可視化 (研究テーマ×研究者×研究の場)
- 計画学で育った人材のダイバーシティに対する課題として、地域づくりの現場にいる女性の割合が低い事、地域づくりの役割は行政とコンサルだけか? (海外では NPO・NGO、コミュニティビジネスが高度な専門性をもって地域ビジョンを示しているのに対し、日本は弱い)、働き方の多様性が低いことが指摘された
- 計画学 50 周年のときの議論で、ダイバーシティと関連して計画学人材がどのように地域づくりに関わるか、例えば都計審の委員経験等の情報を様々調査されていたのでレビューすると良い

(ワークショップ 2 の結論として)

- 研究成果発表の場となっている秋大会 (企画部門) に、研究討論の場の提供を目指す
- 今度の秋大会でセッションをつくることを前提に、2019 年度の全国大会で試行的に討論の場をつくる
- 全ての幹事は「災害と土木計画学」「ダイバーシティと土木計画学」のいずれかのテーマで 2 頁の原稿を作成し、全国大会に投稿する。第IV部門のプログラム編成委員と相談し、およそ 14 編の論文で 2 セッションを立ち上げてもらう
- 全国大会は 9/3,4,5@香川
- 本日欠席の幹事にも周知する

13:00~14:00 幹事会

・オリパラ TDM の経過報告 (毛利)

- 計画学としては、アイデアソンを必要に応じて秋大会で支援することを検討する。その場合は、スペシャルセッションとするか、別会場においてポスターセッションとするかのどちらかを検討する
- 大会組織委員会が議論している施策を批判するのではなく、TDM や東京以外の全国で支援できるようなアイデアを出して貢献することを考えたい

その他

- 次回幹事会は 4/17 (水) 16:30-18:30 に開催する。

以上